

# におい刺激が感情状態と生理反応に与える影響

1934060 名瀬玲奈 (平林ゼミ)

## 目的

におい刺激に対する人の反応は、視覚からの情報により変化するとされており、日本人に馴染みのないにおいと同時にネガティブ情報を与えると、ポジティブ情報を与えたときより不快に感じたと報告されている。本研究では、日常生活で嗅いだことのあるにおいに対しても、同様の反応が見られるのかを検討するため、においに対する快・不快度や感情状態を測定し、生理反応も観察した。



## 方法

### においの提示

**におい刺激**：①グレープフルーツ  
②キンモクセイ



(蓋付シャーレに入れて準備し、30秒間提示)

**提示条件**：①情報提示なし (においのみ)  
②におい+ポジティブ情報  
③におい+ネガティブ情報

(30秒間で黙読できる情報を提示後に、においを提示)

### 実験方法

**対象**：女子大学生6名

**環境**：26°C、50%RH (人工気候室)



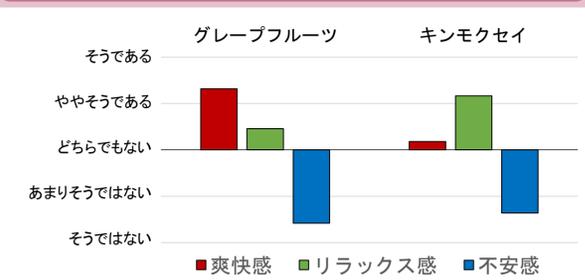
**測定項目**：

- 生理指標
  - 心電図 (RMSSD)
  - 脳波 (含有率)
- 主観評価①
  - においの有無 (2段階)
  - においの快・不快度 (9段階)
- 主観評価②
  - 感情状態 (12項目・5段階)

感情状態12項目	
爽快感	生き生きしている
	爽やかな気分である
	はつらつしている
リラックス感	すっきりしている
	リラックスしている
	ゆったりしている
不安感	落ちついている
	穏やかな気分である
	不安である
不安感	思わずらっている
	くよくよしている
	心配である

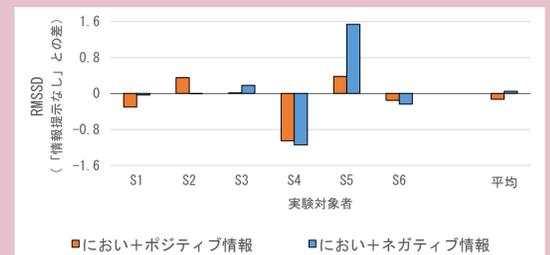
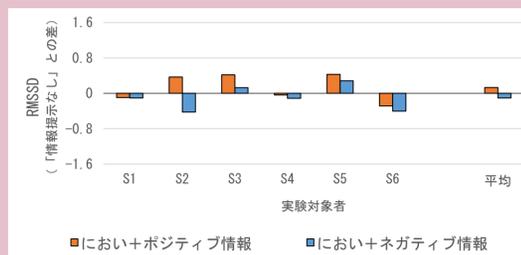
## 結果

### においに対する感情状態 (情報提示なし) (6名の平均)



「グレープフルーツ」 爽快感：高、不安感：低  
「キンモクセイ」 リラックス感：高、不安感：低

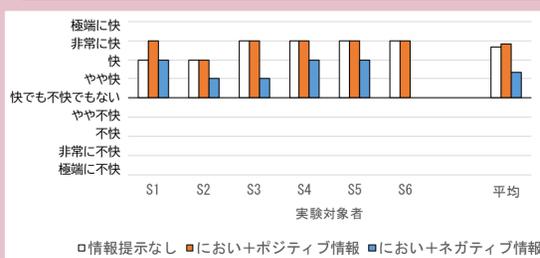
### RMSSD：副交感神経活動の指標 (提示なしとの差) 【グレープフルーツ】 【キンモクセイ】



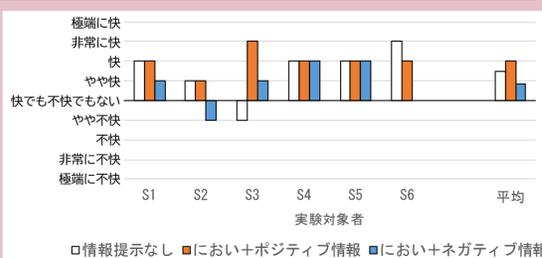
「グレープフルーツ」 ポジティブ情報 > ネガティブ情報  
「キンモクセイ」 個人差が大きく、一定の傾向はない

### においに対する快・不快度

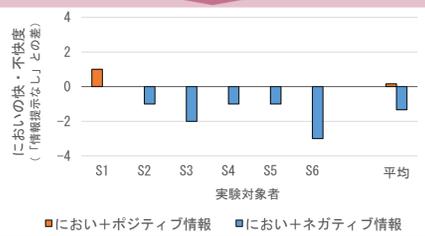
#### 【グレープフルーツ】



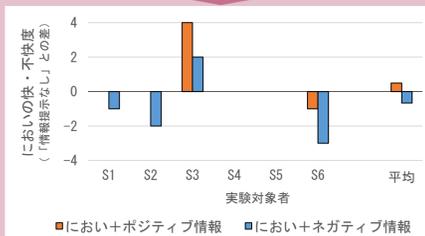
#### 【キンモクセイ】



#### 提示なしとの差



#### 提示なしとの差



情報提示に拘わらず、どちらのにおいも、ほとんどが「やや快適」～「非常に快適」と評価  
「グレープフルーツ」 ポジティブ情報：情報なしと同じ、ネガティブ情報：快適感が低下  
「キンモクセイ」 6名中4名において、ネガティブ情報：快適感がポジティブより低下

### グレープフルーツ

RMSSD: ポジティブ情報 > ネガティブ情報

ポジティブ情報+香り：副交感神経活動を亢進

ゆったり、リラックスした気分

### キンモクセイ

RMSSD: 一定の傾向はみられない

情報+香りの効果：個人差が大

## 結論

### 香りの効果

- 嗜好性の高い香り → 快適 → 不安感を弱める
- グレープフルーツ → 爽快感を高める
- キンモクセイ → リラックス感を高める

### 情報提示の効果

- グレープフルーツの香りは、**ポジティブ情報**を与えると、よりゆったり、リラックスした気分なる
- ネガティブ情報**は、グレープフルーツの香りによる快適感を低下させ、副交感神経活動を抑制する

- 香りは、感情状態を変化させる

- 嗅覚は、視覚情報に左右される場合がある

### 提言

- ◆ 生産者は商品イメージを正しく伝えるように考慮する
- ◆ 消費者は情報に左右されず行動することが大切